

知事コメント

大浦湾側の埋立てについて

本日、沖縄防衛局から沖縄県に、所要の準備が整い次第、本日にも大浦湾側の一部で埋立てを開始するとの連絡がありました。これにより、大浦湾における土砂の投入が本格的に行われることになるものと考えております。

大浦湾の埋立工事については、地盤改良工事に係る砂杭の打設が、詳細な理由が示されぬまま5か月以上停止していたことなどから、沖縄県は、工事の長期化が懸念され、ひいては埋立工事全体を完成させることが困難な状況が明らかになりつつあると考えております。

全体の見通しが立たないにも関わらず、生物多様性が極めて高く貴重な自然環境を有する大浦湾を埋め立てることは、性急に過ぎると言わざるを得ません。

沖縄県としましては、かねてから、辺野古新基地建設問題は、対話によって解決策を求めていくことが重要と考えており、政府におかれましては、技術的にも完成が困難であることが明確になりつつある辺野古移設設計画を断念するとともに、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去について等、問題解決に向けた沖縄県との対話に応じていただきたいと考えております。

令和7年11月28日
沖縄県知事 玉城デニー